

平成27年度ボランティア関係機関職員養成講座(第3回研修会)

「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築を目指して」

平成27年10月19日(月) 青森県総合社会教育センター第1研修室

10月19日月曜日、当センターにおいて、弘前学院大学准教授 高橋 和幸 氏を講師に招き、ボランティア関係機関職員等17名の参加のもと、第3回研修会を開催いたしました。秋田県からの参加もあり、除雪ボランティアに対する関心の高さが伺えました。

1. 講義：「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築を目指して」

午前中の講義では、「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築を目指して」と題し、説明いただきました。特に、講義の中で、解説を加えながら、強調していた点は、次のことでした。

- ・ 平成26年11月に全国の豪雪地域に指定されている532市町村に「前年度の積雪期(H25.11~H26.3)における管内の除雪ボランティア」の活動実態や支援の仕方等を調査し、**青森県からは、40市町村全てからの回答**を得た。
- ・ 青森県の現状・・・**県内の6割**の市町村で「除雪ボランティア」を行っていることが分かった。
- ・ 市町村「行政支援」としては、**小型除雪機の貸し出しや購入支援が多い**。また、**活動の様子を広報に掲載し、普及啓発に努めている**。ただ、行政支援については、市町村の温度差が感じられた。
- ・ 担い手不足を感じている市町村が多い一方で、**他地域から来訪してボランティアをしたいという人の連絡調整をしているところも、少なくない**ことがわかった。



【講師：高橋 和幸 氏】

2. 事例発表：「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築を目指して」

午後は、午前の講義内容を踏まえた上で、中泊町社会福祉協議会と内町社会福祉協議会の取組事例発表を行いました。

事例発表の下山氏からは、中泊町の取組状況について、次のように報告されました。



【熱心に講義を受講する参加者】

○中泊町は、社会福祉協議会が中心となって除雪支援を行っている

- ・ 目的は、中泊管内の降雪時等において、自ら除雪作業ができないばかりか、町内に身内等がいない日常生活に**困窮している高齢者や障がい者等の冬期間における日常生活を支援**するため。
- ・ 支援内容は、日常生活確保のための必要最小限の除雪作業とし、**屋根の雪下ろし作業等は行わない**。
- ・ 互助・共助の除雪作業以外の取組として、地域の集会所を活用し、平成10年度から「ほのぼの交流事業」により、昔の遊びを伝承する等、**お年寄り**と子ども達との世代を超えた交流や「地域座談会」をしている。



【中泊町社協：下山 功樹 氏】

つづいて、井筒氏からは、平内町の除雪ボランティアの取組状況について、次のように報告されました。

○平内町は、行政と学校と社会福祉協議会が相互に連携して取組んでいる。

- ・冬期間除排雪作業実施要綱における主旨は、「一人暮らしの高齢者や高齢者世帯・障害者世帯等が冬期間、住み慣れた家で安心して暮らせるように 雪害による事故等予防及び生活道路確保の為に実施する。」とある。
- ・特色として、「除雪に関する打合せ」は、平内町社会福祉協議会と行政機関（平内町役場等）とボランティア団体（町内高校）の**3者が連携**し、協力し合いながら取組んでいる。
- ・子供から高齢者まで誰でも安心して道路や施設を利用できるよう町全体が除雪活動に取り組んでいる。



【平内町社協：井筒 健一 氏】



【質問する参加者】

その後、参加者から質問や詳細について聞きたいとの意見もあり、除雪や互助・共助の取組についての関心の高さが伺えました。

3. 演習：「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築を目指して」

ファシリテーター高橋准教授のもと、下記の流れでグループワークを行いました。

(1) メンバー自己紹介

仕事としてどのように住民ボランティアに関わっているか ②個人的に地域で携わっている活動

(2) 所属機関の管内の除雪ボランティアの活発さ、および課題について

自分の職場等において、除雪ボランティアの取組についてグループ内で意見交換を行いました。

(3) 除雪ボランティアの要望事例について

「ボランティア負担1人3千円の予算で20人のグループ受け入れ、管内のどこに宿泊し、どんな除雪ボランティアを体験してもらい、思い出に残る観光、市民協力を得たおもてなし体験をする」という設定で、各グループで話し合いました。A、B、Cグループから出た提示案は以下のものです。

- ・Aグループ・・・温泉付き宿泊施設（バーデハウス・チュリウス）に宿泊し、施設周辺を除雪。除雪の際、社協がスノーダンプを貸し出す。鍋料理でもてなす。
- ・Bグループ・・・梵珠少年自然の家に宿泊し、「地吹雪体験ツアー」を行い、その後で除雪も行う。
- ・Cグループ・・・中泊町の「ストーブ列車」に乗ってもらう。交流スペースを活用し、その後、駅周辺などの除雪を行う。



【グループで意見を交わす参加者】

〈参加者のアンケートから〉

- ・各地での除雪ボランティアの活動事例の発表やグループで積極的な話が出てよかった。
- ・青森県のアンケートの回答率が高いことから、ボランティアへの活動意識が高いことに少々の満足感をもった。
- ・地域住民と協力してボランティア活動事業を実施する際、行政側として、しておくべき事前準備、ネットワークを構築しておくべき住民団体、事業後の処理すべき案件についてヒントを得ることができました。
- ・除雪に関して、前向きに考える視点に目からうろこでした。
- ・苦しいイメージでしたが、資源の1つとして除雪を利用し、コミュニティにつなげればと思います。

〈講師紹介〉



高橋 和幸 氏

(弘前学院大学
社会福祉学部 准教授)

【主な履歴】

- 2006年4月 秋田看護福祉大学看護福祉学部福祉学科 専任講師
- 2009年4月 秋田看護福祉大学看護福祉学部福祉学科 准教授
- 2012年7月 弘前学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授

【主な著書・論文等】

- ・「住民参加・参画のまちづくり」中央法規出版 2006年発行（共著）
- ・「地域福祉の基本体系」頸草書房 2006年発行（共著）
- ・「住民参加・参画の子育て支援」中央法規出版 2009年発行（共著）
- ・「地域福祉の原理と方法」学文社 2013年発行
- ・「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その1～その6）」弘前学院大学社会福祉学部研究紀要に掲載

【主な活動及び社会貢献】

- ・横手市健康の駅推進会議 委員
- ・青森県介護実習・普及センター活動事業運営委員会 委員
- ・青森県すこやか福祉事業団障害者総合福祉センターなつどまり第三者委員
- ・弘前大学医学部非常勤講師(担当：社会福祉学、社会保障論)